



イベント、それは人が集う場所でもある。

人が集えば、そこから力が生まれ、絆が生まれ、そして次へと繋がっていく。

その繰り返しさがさらに大きな力を生み、町全体に活気が溢れ出す。

19年間続けられてきた鬼北町の象徴「でちこんか」。

そこから生み出された力は莫大で、そして繋がっていく。

これまでも、これからも――

継続していく限り力は広がり、またそこに人々の笑顔が帰ってくる。

「ありがとう。また来てね」の言葉で送り出し、また来年「おかえり」と笑顔でこの場所に迎えられるように――

### 写真の輪プロジェクト

## もう1つの絆物語 ―受け継がれていく想い―

東日本大震災を機に人と人との絆について改めて考え、「決して一人じゃない。みんな繋がっている。手と手をつないで元気を出していこう！」との思いで、近永カメラの店主・加賀城孝さんが始めた「写真の輪プロジェクト」。しかし、志半ばで孝さんが不慮の事故で帰らぬ人に。「でちこんか」での写真の展示を望んでいた孝さん。その遺志を叶えてあげたいと、奥さんと娘さんは、商工会や役場の職員の協力のもと、餅まき台への展示を実現しました。

これまで孝さんが撮影してきた約1,200人にもおよぶ人たちの笑顔の輪。孝さんの温かい人柄が表れているかのように、写っている人たちの表情はとても穏やかな空気を纏っていました。

さらに当日は、奥さんと娘さんによる笑顔の撮影会も実施。約500人もの笑顔撮影し、さらにこの絆の輪は広がっていきました。

「でちこんか」終了後、展示していた写真には撮影してもらった人たちからの感謝のメッセージが、いくつも貼ってありました。綴られたたくさんの「ありがとうございます」の言葉。その言葉に、人と人の心が確かに繋がっていく絆が見えました。

1\_「絆」の文字、そして孝さんの笑顔から始まる写真の輪  
2\_父と娘が交わす最後の約束  
3\_孝さんへ送られた温かい感謝のメッセージ



3

2